

ただいまご紹介にあずかりました香川大学教育学部の守田逸人と申します。本日はどうぞよろしくお願いたします。座ってお話しさせていただきます。今日は巡見ということでお集まりいただいたわけですが、それに先立って基礎的な知識というか情報を、まず20分ぐらい座学をしましてから外に出たいと思います。しゃべりたいことはたくさんあるんですが、時間が限られていますのでちょっと端折りながらになってしまいますけども、よろしくお願いたします。

私は主に日本中世史を研究しております、特に土地制度史を専門にしています。あとは地域社会史のほうもやっております。もともと私は東京におりまして、香川大学に着任してまだ三年半ですので、恐らく地域の細かい事情については皆さんのほうがお詳しいのではないかなというふうに思っております。その中で、皆さんとこうやって一緒に、ともに善通寺の街を歩くことができるということは大変うれしく思います。皆さんからもいろいろとお教えいただけたらというふうに思っております。

今日は資料を二種類用意しております。まず一つの束は、3枚つづりのほうの束ですね。Googleの地図2枚と絵図についての若干の解説をしているものが1枚。それからもう一つの束は2枚つづりのもの。今、(壇上のスクリーン)画面に出している絵図ですね、それとこの絵図のトレース図をつけたものです。この二種類を用意しております。ご確認ください。

私はもともと東京におりましたときから、こちらの善通寺さんの史料については本当に関心を持っておりまして、着任が決まったときも本当に、善通寺さんの史料をまず見たい、研究したいというふうに思っていました。それでまず、まさにこちらの史料(前出の絵図)の閲覧をお許しいただいて、こうやっていろいろと考えることができるということは本当に研究者冥利というか、幸せな気持ちでいっぱいです。お寺の方々、関係者の皆様に本当に厚く御礼を申し上げます、この場をお借りして。

それで、今日歩こうと思っているところは、中世の由緒の残っている善通寺地域ということになります。(スクリーン:『善通寺伽藍并寺領絵図』全体)これ、先ほどからお見せしているのが鎌倉時代ぐらいに描かれた善通寺周辺の地図になります。ちょうど今年の二月に、この絵図についてのお話をこちらのてくてくワークショップでもさせていただいたんですが、そちらのほうにご参加された方ってどのぐらいいらっしゃいますか。あ、ちょっと少数派なわけですね。わかりました、ありがとうございます。こちらは鎌倉時代ぐらいに描かれた絵図ということになっているわけですが、非常にたくさんの、この地域の歴史過程を考えるうえで貴重な情報がたくさん詰まっております。

そうしましたら、ちょっとこの絵図についての簡単な説明だけ先にしたいと思うんですが、3枚の束になっているものの3枚目です。「善通寺領絵図について」という文字レジュメのほうですね。善通寺領というのがある程度確定していく、政府に認められて確定していく段階というのが、だいたい12世紀ぐらいにいわゆる寺領、または荘園なんていうふうな言い方もしますが、そこで確立していきます。ただ、なかなかそれが、支配が定着しなくて、13世紀ぐらいを通じてようやく確固たる善通寺領というのが形成されていくわけですね。ちょうどこの絵図はその頃の様子を記しているものです。

(スクリーン:『善通寺伽藍并寺領絵図』全体)ちょっと見ますと、今これは北を上にして見ておりますけども、善通寺の伽藍(東院)がここにありますね。誕生院(西院)のほうはここにあるので、私たちは今こ

の辺りにいるわけですが、この絵図は、いわゆる「条里方格線」が描かれています。土地を碁盤の目に区画して整備していく、条里プラン（条里制）というやつなんですけども、この地域は古くからそうした地割になっていまして、実はこういう様相は今でも確認することができます。（スクリーン：善通寺市市街地の GoogleMap）航空写真なんですけれども、これも北を上にして今見ております。道のラインとかがおおむね古い条里方格線に従っていて、この地域にはまだそうした古い地割の跡が存在しているわけですね。このライン（善通寺周辺の県道 24、48 号線など）ですね。このラインが古くからある条里方格線のラインです。一方、曼荼羅寺周辺のほうは若干ラインの角度が違うわけですが、これは恐らく谷間の地形的な条件に左右されて、このラインのほうが便利だということでここだけちょっと特異なラインになっているかと思えます。もちろんそれぞれの歴史過程の中でこんなふうな、例えば学校ができたり（善通寺養護学校の辺り）、そういうときには古い条里方格線のラインが破壊されて今のような違ったラインになっていますけども、この辺りは基本的には古いラインというのが非常に残っている地域です。だいたい水田にしても何にしても、近代以降、特に昭和の戦後に圃場整備事業なんかで区画整備を行ってしまっただけで古い地形ラインというのは崩されてしまうのが日本全国ほとんどなんですけども、この辺りの地域は割とそういったこともなくて、古い景観が残っているととても貴重な地域だと思いますね。それで、さっきの絵図と見比べていただければいろんな共通項なりが見えてくるわけですが、その辺を落と込んだものが今日皆さんにお配りしているものになります。

（スクリーン：善通寺市市街地の GoogleMap）私なんかはもともと、もちろん学生時代にはこういうオンラインの地図なんかなくて、それこそもう現地調査をするとなったら「国土地理院の地形図を絶対使いなさい」というふうに言われて育った世代です。今は割とそういうのが崩れてきたというか、コンピューターの席巻がすごくて、例えば私なんかはこういう研究を今は GoogleMap を使ってやっています。実は GoogleMap を研究に使うって地理調査とか歴史調査をするとういうのは、今では割とスタンダードになりつつあります。あと、国土地理院にもオンラインの地図がありまして、昔よりは使いやすくなってきたと思うんですけども、やっぱり今はどっちかという GoogleMap のほうが使い勝手がいいですかね。（スクリーン：国土地理院の地図・空中写真閲覧サービス）こういう国土地理院の空中写真サービスというのがありまして、今まではお金を払って買っていた地形図なんか普通ここで見るすることができますね。

（スクリーン：善通寺周辺の GoogleMap）それで、ちょっとこのライン（善通寺周辺にのこる条里方格線）の説明だけしておきたいと思います。お手元の絵図とも見比べていただけたらと思います。こちらの GoogleMap 内でピンを打っている所というのは、一応私の調査の中で目印として打っていったものでして、左脇のところにはこういうふうにピン毎の解説を加えているわけです。あ、そうでした、始めにお話ししておきますと、皆さんにお渡しした地図に一点漏れがありまして、実は「南海道」がこの辺りを通っていたと推定されているんです。善通寺がここにありまして、このライン（県道 209 号の辺り）ですね。四国学院大学や護国神社のなかを突き抜ける格好で、香色山の麓にまで行っています。で、山の麓をぐるっと回る格好で有岡の大池までつづき、その脇を通過して高瀬のほうまで抜けるわけです。ちょっとこの部分が漏れてしまっただけで、申し訳ないです。

(スクリーン：『善通寺伽藍并寺領絵図』全体) それで、絵図をご覧になっていたら…、ちょっと文字がちっちゃくて見えにくいのですが…、皆さんは併せてトレース図のほうもご覧いただくのが良いかも知れません。この絵図にはいろんなことが書き記されていて大変興味深いんですけども、この絵図、実は大きく分けていくつかのエリアに分類ができるんです。

まず、皆さんもよくご承知の五岳山がここにあつて、条里方格線の平地の地域がその東側に広がっている。そしてひときわ目立つのがこちらに描かれた有岡の大池ですね。これはちょっと距離的にはデフォルメされた感もあります。実際には善通寺から2キロ半ぐらいのところにありますが、ちょっとこの辺り（有岡大池から善通寺市立西部小学校辺りまで）の水路が短く描かれています。この絵図は、こういった水系、つまりどういう用水路を引いているかというのを示していたりもするわけです。こちら（有岡大池の描かれた反対、東側）にも二つの水系があります。この三つの水系が、ここ善通寺の門前のほうへ流れてくるようになっているんです。

(スクリーン：『善通寺伽藍并寺領絵図』の左上部) それで、ちょっとわかりづらくて申し訳ないんですが、この辺り（善通寺門前の東側・南側）に、ちょっとスクリーン上では逆さになっていますけども（『善通寺伽藍并寺領絵図』は南を上を描かれているが、スクリーン上ではわかりやすいよう北を上に見せている）、「くらのまち」とか「田どころ」とか、あるいは「じじゅう」とか「さんまい（三昧・ざんまい）」といった文字が書かれていますね。これは言ってみれば、どっちかという地域社会の中でリーダーシップを取るような、あるいは善通寺のお寺の中でリーダーシップを取っていくような人々のこととして、そういったいわゆる在家の屋敷が善通寺門前の東側や南側にずらっと並んでいると。一方で、門前から北のほうへ行くと「末弘」とか「國包」とかいう文字が見えてきますね。これは普通の、俗世の人間、恐らく農民だと思うんですけど、農民的な土地所有がこの門前から北のほうには展開しているということです。それが絵図から明確に読み取れるようになっています。そして、このふたつのエリアの境界線というのがどうやらこのラインです。門前（善通寺誕生院の赤門前）から2ブロック北のほうへ行つたこちらの東西方向に延びるラインです。このラインで大体、善通寺僧や地域の有力者たちが住まう地域と、農民的な土地所有が展開している地域に分かれるように見えます。(スクリーン：善通寺周辺の GoogleMap) それを表現したのがこのライン（「エステサロン・ビマインド」前の北東-南西方向へ延びる道）です。あとで歩くときにちょっと参考にしてほしいんですが、このラインを境にして恐らく文化的な違いや、住んでいる人たちの階層の違いというのがかつてはあったと思うんです。今もそれが継承されているのかどうかはわかりませんが、それを考えていくのももしかしたら大変面白いことかもしれません。

(スクリーン：曼荼羅寺周辺の GoogleMap) それから、今日はちょっとここまでは歩けませんけれども、曼荼羅寺の近辺ですね。この辺も非常に豊かに描かれているわけですけども、(スクリーン：『善通寺伽藍并寺領絵図』の右下部) 「曼荼羅寺」とここにありますがね。その南側に、「小森」って書いてありますね。これは今でも通称「小森さん」と地域の方が呼ぶお社です。曼荼羅寺のちょっと南のほうにあります。このお社なんかも由緒のある、少なくとも鎌倉時代から続いているというふうには考えられています。それから山の中腹に「ゆきのいけの大明しん（大明神）」というのがありますね。これも実は、今も出釈迦寺さんの西南あたりにイキノキ明神という祠がございます。これがそれに相当するんじゃないかというふうにいわれています。

す。そんなふうに、鎌倉時代の絵図に描かれているいろんなものが現在にまでつながっている。非常に貴重な情報になるわけですね。

(スクリーン：『善通寺伽藍并寺領絵図』の最右下部) これは実は皆さんに少し教えていただきたいというものがあまして。ここの善通寺領の境に「よしわらかしら」と書いてありますけども、その文字の横にお屋敷のようなお堂のようなものが描かれています。これがいったい何なのかっていうのは、割とこれまであまり検討されてこなかったんです。この距離間、条里方格線の距離間からすると、例えば曼荼羅寺の山の尾根がここにきているわけで、そこから100メートル、200メートル、300メートル、400メートル、500メートル、600メートルぐらいということ想定するならば…、あ、ちなみに条里方格線というのは大体一つの方格がおよそ109メートルなんです(109メートルは1町にあたり、1町四方からなる基本単位を「坪」と呼んだ。)(スクリーン：吉原大池周辺のGoogleMap)ですから曼荼羅寺の尾根から600メートルか700メートルぐらいの所というふうに考えると、「よしわらかしら」は今のこの辺りにあるんですよ。で、ここに今何があるのかというと、実は七佛寺さんという今はもう廃れてしまっているお寺があるんです。これは所伝によると、中世は非常に栄えていたといわれているんです。歴史のある段階で火災に遭って、近代以降ではちっちゃなお堂しか残されていないというふうになっています。中世の段階でどんなものだったのかというのはなかなか記録に著れていなくて、ちょっとこれからも探していこうとは思っているんですが、「この可能性はないのだろうか」というふうに今ちょっと考えています。中世にあったことは確からしいんです。どなたか知っている方がございましたら教えてください(笑)。

(スクリーン：『善通寺伽藍并寺領絵図』の左上部) ちょっと絵図の話に戻ります。いろいろと興味深い絵図なんですけども、今日はこの全体を歩くことはできませんので、主に善通寺近隣の箇所にと絞りたいと思います。この有岡の大池から、絵図を見てもお分かりのとおり、非常に強調した格好(筆)で水路が描かれていますけども、これの現在の在り方というのと、あとはこの門前町の在り方を見て歩こうと思います。それから、この善通寺さんは一般的には空海のお父さんである佐伯善通さんが建立したっていうふうな所伝がございしますが、実は埋蔵文化財で確認するともっと古い時代のものが出てくるんです。先行する白鳳期の寺院の瓦が出てきたりするわけなんです。それで、実は善通寺さんから出土しているものと同じような瓦というのが、ここからちょっと離れたところでも出てきているんです。それがいわゆる仲村廃寺といわれるものなんです。そこもちょっと回っていききたいなと。それから空海が幼少期に過ごしたといわれる仙遊寺の近辺にも、この絵図にかかわる重要なちょっと面白いところがありますので見ていきたいと思います。ちょっとざっくりしたお話だったんですけども、それからもう少しいろいろと説明する必要があるところもあるのですが、それは適宜歩きながらでもお話しできればというふうに思います。では、外へ行って見て歩きましょう。

*** 巡見 ***

【善通寺・遍照閣（ワークショップ会場）まえ】

はい、ではよろしいですかね。二種類の、絵図と地図（GoogleMap を出力したもの）を見比べながら行かれると良いかと思いますが、基本的には地図のほうを見ながらのほうが良いですかね。では、行きましょう。

【善通寺・先師墓地まえ】

こちらに墓地があります。いろんな暮石や石塔なんか並んでいて、新しいものも古いものもあるんですが、皆さんは「五輪塔」っていうのはご存知ですかね。世の中を構成する空・風・火・水・地をそれぞれ表現しているものです。こちらにも五輪塔がいっぱいありますけども、奥のほうにちょっとぼてつとした、背の低いものがありますね。あれはかなり古い時代のものです。間違いなく中世のものです。一方で、笠が反り上がっているような格好のものもありますね。ああいうのはやっぱり、江戸時代以降のものなんですね。

【善通寺・空海記念碑まえ（駐車場横）】

絵図をご覧になっていただくと、善通寺誕生院の裏（西側）にいくつかの山が描かれていますね。その内のひとつに「八幡山」の絵が描かれているんですが、お分かりですかね。この山、実は現在では無くなっています。この駐車場を造るときに無くしたんですよ。絵図でいうとこの山ですね。それから香色山がここから描かれていて、五岳山がずっと展開していますね。実はこの駐車場の端っこのほうに、その名残かなと思われるものがありますので少し覗いてみましょう。

【善通寺・駐車場西端（香色山稲荷大明神の鳥居まえ）】

ここから香色山の麓を南へ向かってちょっと歩いて行きますけども、実はそう遠くない所で、「南海道」とぶつかることになります。ですから、善通寺というお寺の立地自体が、非常に交通の要衝に築かれているわけです。古くから人々が集まるそういった町場として機能していたというのがよく分かる場所ですね。先ほどお話しするのを忘れましたが、誕生院から駐車場に出るときに濟世橋を渡りましたよね。あそこの川というのが、この絵図にも描かれていますように、誕生院の裏に基幹的なかなり濃い墨色で水路が描かれていますけども、まさにこれに相当するわけです。絵図でいうとこれですね。これが有岡の大池からずっところまで流れてきているっていう格好になります。【香色山の麓を南方向へ歩いて行く】

【香色山の麓を南方向へ歩きながら】

最近是这样いった地図（GoogleMap）のGPSの技術も非常に進化してしまっていて、研究で歩くときも紙の地図よりもスマホのほうが便利なんです。歩きながらでも記録していったり、写真を撮ってそのまま国土地理院の地図なりGoogleの地図なりに情報を飛ばすこともできるんですね。

【五智院から南方向へ130mの地点。東方向への下り坂の手前】

ここからちょっと細い道に入って行きますけれども。実はちょうどこのライン（東方向への下り坂）ぐらいが、香川県の埋蔵文化センターが想定している南海道の東西ラインなんです。そうです、真っ直ぐこのライン、四正方位で言ったら東のほうにずっと入っていきますね。【下り坂を下りて行く】

【同坂を下りて右折し、路地を南方向へ歩きながら】

先ほどの座学のときにちょっとお話ししましたように、この絵図の条理方格線、正方形のひとつひとつの坪々というのは、大体 109 メートル四方になっているわけです。ですからそれを数えていくと、今、もうすぐあの自衛隊との境ぐらいの所が、当時の普通寺領の南限ということになるわけです。つまり今の自衛隊の敷地があそこで区切られているのも、テキトウに区切っているのではなくて、やっぱり何かしらの境になりやすい所だったんだと思われませんか。

（参加者「先生、南海道の道幅って 20 メートルぐらいあったんですか？」）そんなに大きくはないですね。もちろん場所によっていろいろだったと思いますが、大体 5～6 メートルぐらいじゃないでしょうか。

【陸上自衛隊普通寺駐屯地 1Camp 北西角の水路まえ】

後であっちのほう（水路に沿って東方向）へ歩きますけど、先にちょっとだけこっちのほう（水路に沿って南方向）にも行きたいと思います。それで、この水路がさっきの、誕生院の裏へつづいている水路ですね。そうです、弘田川です。今はおそらくこの自衛隊の境界を意識して、こういうふうにも水の流れを曲げているんだと思いますけど、昔はもうちょっとスムーズな真っ直ぐな流れだったんじゃないかと思います。【水路に沿って南方向へ歩いて行く】

【同水路の南西方向への分岐点。そこから南方向へ 140 メートル程の地点】

この南西方向の水路をずっと行くと（遡ると）、有岡の大池まで行くわけです。有岡の大池、ちょっとここからは見えないですね。見える所まで行きましょうか。本当は有岡の大池の現地まで行きたいんですけども、行くとそれだけで時間が終わってしまいますんでね。あ、あそこ（南西方向）に古墳が見えますね、有岡古墳群ですね。

ここからは池の堤はちょっと見えそうにないですね。実はこの山づたいに南海道がずっと通っていて、残念ながらここから有岡の大池は見えませんが、そこには非常に大きな堤があるんです。私も初めて香川県に来たとき、まず池の多さにびっくりしましたが、有岡の大池を見たときはもう本当に高い壁のような堤で驚きましたね。そこからこの水路が出ております。またお時間のある方は有岡の大池も実際にご覧になったらいいかなと思います。

絵図をご覧になられると、いくつかの池からも水が出ておりますけども、もちろん中世から同じ、樋口が変わっていないというわけではありませんから、それぞれに歴史過程があって、変わっているとは思いますが。それでも概ね、池を使ったことにはかわりはないということです。それで、この有岡の大池がいつ出来たのかというのいろいろと議論があります。実はこの鎌倉時代に描かれた『普通寺伽藍并寺領絵図』はこの池を造るために描いたんじゃないかっていう議論もあります。正しいかどうかは分かりませんが、「鎌倉時代の前期にはこの有岡の大池っていうのは無かったんじゃないか」と言う人もおまして、今はまだ分からないんですけどね、無かった可能性も確かにあるんですよ。鎌倉時代になってから造られたというふうを考える人も多くて、これによって普通寺周辺やここから北の水田が潤っていったというふうな説もございいます。いずれにしても、この有岡の大池というのが普通寺地域に永らく潤いをもたらしてきたことはもう間

違いのないところです。「少なくとも鎌倉時代の後期ぐらいからはあった」ということです。

ではちょっと引き返しまして、行きましょう。【水路に沿って北方向へ戻る】

【陸上自衛隊善通寺駐屯地 1Camp 北西角の水路まえ】

この絵図でいうと、正に今いる位置が条理方格線（善通寺領）に入ってくるぐらいの位置になるわけですね。もうちょっとそっち（西側）ぐらいかな。【駐屯地北面堀沿いに東方向へ歩いて行く】

【陸上自衛隊善通寺駐屯地 1Camp 北西角から東方向へ 60 メートルの地点】

この水路が北のほうに、善通寺の裏のほうに抜けていくわけですね。

【さらに東方向へ 30 メートル進み、左折した先の水路の橋上】

この水路なんですけども、今では少しくネクネしておりますが、この絵図でいうとこの東西（西から東）に流れている用水路ということになります。先ほど、この絵図自体が池の築造の計画図の可能性もある、そういうことを指摘している人がいるというふうに言いましたけども、その根拠になっているのが実はこの場所、この地点です。絵図によると、有岡の大池から水が流れてきて、大きな流れで描かれているこれは善通寺の裏に行く流れですね、で、今いる所というのはこれ（支流。西から東の流れとして描かれている）に相当するわけです。ですが今実際に現地をご覧になって分かるように、水は東から西に流れていて、それがあそこ（善通寺裏行きの大きな水路）へと合流するわけです。ですから「こういう絵図のような水の流れはありえない」ということなんです。「こういう矛盾が生じるのは、絵図が描かれたときにはまだこの池がなかったから、水路がなかったからなんじゃないか」って仰る方がいる。本当にまだ水路がなかったからなのかそれとも単なる描き間違いなのか、分かりませんが、そういった議論があります。いずれにしても、やっぱりこういう用水路ひとつをとっても、古い歴史のあるものと新しいものといろいろとあるわけです。どれが古いものなのかを順番に考えていくと、地域がどういうふうに成立してくるのか、開発が進んでいくのかということが分かってくるわけです。

最近、そういう地域の歴史過程みたいなものを復元していこう、地域の成り立ちの歴史過程について検証していこうっていう動きって、割と日本全国で盛んになっています。それはやっぱり地域社会がどんどん激変していますし、世代交代が激しくて古い地名がどんどん無くなっている、そういう危機感があって、そうしたものをしっかりと記録していくべきだというような議論が盛んになっているんだと思います。こういう言い方をしたらあれなんですけど、例えば、私たち研究者は科学研究費というものを国に申請するんですよ。それでこういう「地域の歴史過程について研究します」って言うと通りやすいんです。それぐらい今では世の中全体に危機意識っていうのがあるということですね。ですから昔は「歴史学」っていうと割と古代史、中世史、近世史、近代史って時代毎に専門が完全に分かれていて、自分の専門の時代だけをやるというのが常だったんですが、割と最近はそういう地域調査なんかでは、「古代だ、中世だとか時代区分をしないで、全体的にその歴史過程を皆んなで考えていく必要があるんだ」というふうになっていますね。

ではさっきの道に戻って、こちらのほう（東方向）へ行きましょう。【駐屯地北面堀沿いに東方向へ歩いて行く】

【陸上自衛隊善通寺駐屯地 1Camp 北面の塀沿いを東方向へ歩きながら】

先ほど参加者の方からご指摘があったんですけども、今はこの水路（東から西へ流れている水路）もウネウネしていて、塀沿いではなくちょっと住宅地の中に入っていますよね。これはやっぱり、水路というのは自然環境によってかなり形状も変わってきてしまうところがありまして、もしかしたらもともとは真っ直ぐに流れて来ていたのかもしれないです。

今日は、ここの地元の方ってどれぐらいいらっしゃいますか。この付近にお住いの方。あ、いらっしゃった、良かった。また何かいろいろと教えてくださいね。

この絵図ですけども、南を上にして左側（東側）にも水源が二つ描かれております。地元の方はよくご承知かもしれませんが、ちょうどあちらの方向（南東方向）に、出水が結構あるようなんですよね。それでこの絵図でいうと、二つのうち左のほうに描かれた出水が今でもかきの股の井っていうところに存在しております。文献史料でも、鎌倉時代に善通寺領を流れる用水として「かきのまたのい」というのが明確に出てくるんです。なので、これのことだろうと。また、絵図にはもうひとつ、「をきどの」というふうに書かれておりますけれども、これに関してはちょっとどこに当たるのか分かっていないんです。

【ゆうゆうロードに突き当たった地点。三叉路の北西角】

はい。今、さっきの水路の橋上から大体 330 メートルぐらい歩いてきたわけですけども、絵図でいうと現在地はここにあたります。ちょうど善通寺領の南限で、南大門から突き当たった所ですね。絵図では東側から水が流れてきて、ここの地点で北行きの流れと西行きの流れに分岐しているように描かれております。ただ、西行きの流れは途中で切れてしまっていますね。実際はどうかと言いますと、さっきご説明しました通り、この水路は西へ突き抜けて、善通寺裏行き水路へと合流していくわけです。

今私たちのいる地点というのは南大門からの真っ直ぐのラインで、しかも善通寺領の境ということで、大変重要な位置になるわけです。それを象徴するものかどうかは分からないんですけども、すぐそこに祠がありまして…。【ゆうゆうロードを北方向へ 15 メートル歩く】

【水路と毘沙門天の祠まえ】

これはさっきの水路へつながる水路ですね。ずっと西のほうに流れて、有岡の大池から流れてくるものと合流して善通寺の裏に行くわけですけども。

この毘沙門天さん。毘沙門天さんの祠があるわけですが。これは私もちょっと不勉強なんですけど、大変由緒が古いという所伝がございます。相当、もしかしたら中世の段階から、善通寺領の境としてランドマークのような役割を持っていて、重要な位置を占めていた可能性があると言えるかもしれません。【ゆうゆうロードを北方向へ 60 メートル歩く】

【「香川荒物店」付近の横断歩道まえ】

このライン、正方向で東西のこのラインが南海道の推定域です。もう、善通寺南大門からすぐの所なんです。ですので、南海道っていうのは善通寺さんのいわゆる僧侶たちの在家、屋敷街を突き抜けるような格

好で通っていたことになります。【ゆうゆうロードを北方向へ歩き、「柳川商店」付近で右折。】

【「善通寺南門前にぎわい広場」まえを東方向へ歩きながら】

繰り返しになりますけども、この絵図の碁盤の目になっているひとつの四角形（一坪）が109メートル×109メートルですので、それを考えながら歩くと、今自分がどこにいるのかっていうのが分かるわけです。京都の町並みは今でもそうなっていますが、分かりやすいですねやっぱり。

今、南大門から出たところの道を東方向に、ちょうど絵図上ではこの方格線のラインのところを歩いています。ですからあと東へ100メートルほど行ったら「くらのまち」と書かれている所へ着くことになります。ただ、この条理方格線と現在の道については微妙にズレるところも実はあるんです。まあ、その辺のちょっと細かいところは今日は少し置いておくとしまして、大体のところを見ていきたいと思います。

今大体、この絵図で「くらのまち」と書いてある所を通っていて、正にこの右手（南側。「cafe ポラリス」付近）のエリアになりますね。「くらのまち」、おそらく蔵があったんでしょうね。お寺にはお寺で、境内のなかに独自の蔵があるわけで、それとはたぶん別の「くらのまち」、いろんな蔵が、倉庫群があったんだと思われまます。南海道に面しているという立地もおそらく関係しているでしょうし、やっぱり物流が盛んだったということになると思います。

【「ヤマザキショップ KAGAWA」まへの交差点】

はい。今ちょうどお寺の門前（赤門まえ）から東へ大体100メートルぐらいのラインです。お寺から一坪東側に来たところ、絵図上では縦のラインがこのラインぐらいになります。それで、こちら（交差点の南西方向）がいわゆる「くらのまち」と言われていた所で、こちら（交差点の南東方向）が「田どころ」さんです。「田どころ」といったら地域の有力者です。いわゆる、中世の土地の単位は「荘園」あるいは「郷」という単位になりますけども、それのかなり代表的な存在です。そういった有力者がこの辺りに住んでいたわけですね。

今、例えばこういうビルなんか建っている所ですと、遺跡も破壊されている可能性が高いですけども、ビルのお隣のこういうお宅とか、あとはその幼稚園（善通寺市立中央幼稚園）とか、こういう所でしたら埋蔵文化財が眠っている可能性がかなり高いです。元がそういう有力者の屋敷でしたらば、須恵器なんかは必ず出てくると思います。いつか発掘が実現することを期待しております（笑）。

ちょっとこっち（南方向の道）入れますか。行ってみましょうか。【交差点から南方向へ歩き、中央幼稚園まえを左折】

【乃木神社北面の塀沿いを東方向へ歩きながら】

ここも、おそらく護国神社（讃岐宮）の境内地だと思うんですけども、こういう所なんか掘ったら出てくる可能性はやっぱりあるわけですね。

あと、ちょうどその辺り（南西方向）が「あわちとの（淡路殿）」と絵図ではなっていますね。

【善通寺市立中央幼稚園から東方向へ60メートルの地点。乃木神社境内北入口まえ】

今日は入りませんが、こういう神社、護国神社をつくったとき、近代になってからこれをつくるわけですが、まあどれぐらい整備しながらやっているのかということにも拠りますが、こういった所なんかはそんなに深くは手を入れていないと思いますので、埋蔵文化財が期待できる所かなというふうにも思いますね。じゃあちょっと、街中にもう少し入って行きましょう。【北方向へ歩き、片町通りへ出て右折】

【片原町通りと大通り（県道 24 号線）の交差点】

はい。ここのラインですね。県道 24 号線のこのラインというのが、善通寺領の東の境、これに相当しているという議論があります。ただ、「厳密にはもう 15 メートルぐらいズレている可能性がありますよ」という議論もあります。まあ、そちらのほうが可能性が高いんですね。ちょっとズレたと。ですけども基本的にはこのラインです。この道は地元の方ならご存知だと思いますけれども、今でも琴平に抜ける非常に大事な道路ですね。今いる所はちょっと北のほうに（護国神社鳥居まえから北のほうに）下ってきておりますけれども、ここから護国神社のちょっと南へ行った所ぐらいから、そこより北側が善通寺領になるわけです。つまりそこが善通寺領の南東の端っこになるわけです。

大体お分かりのとおり、その南東の端っこ辺りから、土地の高低差で言いますとこんな具合（北西方向と北東方向へ下がっている）に低くなっていつているんです。で、この絵図もまた、ご覧になってお分かりのとおり水はやっぱり高い所から低い所に行きますので、こういうふうの流れているんですね。

では、北のほうに向かいましょう。【商店街に入り、北方向へ歩いて行く】

【大通りと赤門筋の交差点】

こっち（西方向）が、皆さんもご承知のとおり善通寺の東門（赤門）の所からの正面の道ですね。この道沿いには、絵図で言うと「さんまい（三昧）」「そうしやう（僧正）」「ししゅう（じじゅう）」なんていう、非常に善通寺のなかでも位の高いお坊さんたちの在家が並んでいた所です。

この門前のエリアは割とビルがたくさん建っているので、たぶん、かなり深い所まで手を入れてしまっている可能性は高いですけどね。【商店街をそのまま北方向へ歩いて行く】

【「ビ・マインド」まえ】

10月になっても暑くて、さすがにこの時期だったら涼しいだろうなと思っていたんですけど、今日は暑くて皆さん歩くのも大変だと思います、すみません。

先ほど少し座学のときに触れましたけれども、領主層といいますかある程度位の高い人たちが住んでいるエリアと、それから善通寺のお坊さんの名前がよく出てくるエリアというのがこのライン（「ビ・マインド」北側の道）から南側です。それでこの道から北側、絵図上ではこのラインから北側のほうっていうのが農民的な土地所有の地域となっていました。ここの道からこっちとこっち。まあ、このラインなのか、もしかしたらちょっとズレている可能性も勿論あるんですが。ただ、そういう文化圏の違いなんかは今でもあるのかどうかっていうところが、これは大変、私なんかは関心があります。そういう地域の温度差みたいなものっていうのは、例えば、神社の氏子圏で分かれたりすることがよくありますけれども、そういったことで現代にも引き継がれている部分があるのかないのか、そういうこともちょっと考えてみる価値があるんじゃない

かなと思っています。地域の歴史を考える上で。

今からすぐそこに、仲村廃寺というお寺の跡がありますので行ってみたいと思います。

【仲村廃寺跡】

こちらが仲村廃寺跡になりますね。ちょっとお参りさせていただきます。

この辺の大きな石が仲村廃寺の礎石じゃないかというふうに考えられていますが、それよりも重要なのが、白鳳時代の瓦が出てきているというところですね。それが、先ほどお話したとおりの善通寺の境内から出土している瓦と同じようなものでして、したがってこの仲村廃寺というものと、善通寺の今の境内にあった前身のお寺とがなにか関わりがあるのではないか、あるいは一体なのではないか、というような可能性が出てくるわけです。讃岐の場合は古代の仏教寺院というのが非常に多くて、これは本当に関東から来た私なんかは非常に驚かされるんですけれども。なんというか、仏教勢力が早くから浸透しているというか、知識人が多い地域だということが明らかです。それで、ついこの間も行って来たんですけども、ここから金倉川をずっと上って行って満濃池があって、その先に中寺廃寺というお寺の跡があるんです。そこはもう満濃池のずっと奥ですけどね。その中寺廃寺というのは8世紀後半の山岳寺院なんです。延暦寺とかとほとんど変わらない時期のお寺がある。しかも、延暦寺よりも標高が高い所にあって建てるのも大変だったはずなんです(笑)。

「どうやって、誰が建てたんだ？」って非常に興味があるんですけども、なかなかその辺が分かっていないんですよ。ここもそう、仲村廃寺も詳細が分かっていないんですけども、そういうのもいづれやっばり、どういう意味があったのかというのを考えていかなければいけないなと思っています。

それで、ここは古くからの瓦なんかが出てきておりますけれども、この少し北のほうでも昭和54年ぐらいに発掘調査をしております、そっちのほうでも瓦が、断片的なものが出ていますらしいです。ですからこの場所は、ちょっとお寺の中心がどこかは分かりませんが、このひとつの石も仮に礎石だとすれば、ここに何かがあったんだろうってということですね。

では、ここからは少し西のほうに行きたいと思います。【善通寺詫間線（県道48号線）を西方向へ550メートル直進。四国こどもとおとなの医療センター駐車場手前を右折し、北方向へ280メートル直進。「犬塚」の看板を右折して路地奥へ】

【犬塚まえ】

はい。今この位置が、善通寺の伽藍から北に500メートル強ほど来た所です。絵図をご覧になっていただきたいんですが、伽藍から北の所に、笠塔婆状の構造物が描かれていますね。これは、こちらの犬塚を描いたものなのではないかというふうに考えられています。鎌倉時代から既にあって、それをここに描き入れたのではないかとされています。ただですね、実はこれ、絵図をご覧になって分かりますように、善通寺伽藍からの方角はもうぴったりなんです、一、二、三、四坪分なんです。400メートル程度の距離の所に描かれているんです。要するに一坪ズレているってことです。実際は、さっきも申しましたが善通寺さんから北へ500メートルの所にあるんです。

これは描き間違いなのか、それともたまたまなのか。いろいろと議論があります。ちなみにあそこの入口にも案内がありましたように、この犬塚は凝灰岩のものですけれども、作風的には鎌倉時代というふうに考え

られています。なんと言いますか、この周辺の歴史的な遺物は、鎌倉時代から継承しているものも多いわけですが、これもそのひとつではないかというふうに考えるのが有力な考え方です。そこで、「場所を移動したのではないか」という議論もあります。けれども、これはちょっとよく分かっていません。それよりも「単純にマス（坪）をひとつ描き間違えた」という可能性。これはやっぱりあると思います。私なんかこういう景観絵図みたいなものを、今、全国には中世の景観絵図って大体300点ほど残っているんですが、そういうものをいろいろ見ますけれども、全部正確に描くというのはやっぱり難しいんですよ人間が。やっぱりどこか間違えちゃうんですね。現地をひとつひとつ歩いて記していくわけじゃないので、やっぱり机で、「あれはあそこにあったよね」とみたいな感じで描いていくので間違いは必ず生じてくるわけです。境争論やなんかの裁判関係で作成された絵図の場合は、もめている場所については厳密にそこで立ち会って記していくんですが、その他の部分的な描写なんていうのは大体もう記憶で描いていくので、間違いが起きてもおかしくはないんです。だから、単純に、マス一つズレたのではないかなど考えるのがまあ自然かなっていうふうに思います。

うん、なかなか見応えがあるものですよ。この石も、なんか少し特徴的で、どこの石か。豊島石（てしまいし）はもっと黒いですよね。これもちょっと礫が入った石なんですよ。あ、こちらは五輪塔の水輪かと思えますけども、同じ石ですかねえ。非常に立派な石造物です。では、仙遊寺のほうに行きましょうか。

【仙遊寺】

こちらは絵図に描かれているわけではないのですが、この辺りに、弘法大師さんが幼少のときにお過ごしなさったって御所伝があるということです。最近このように建物が新しくなりましたが、12世紀後半ぐらいのこの辺りの土地帳簿には、「大師遊墓」という記述があるんです。それでひょっとしたらこういう名残、伝承に繋がってくる可能性もあるんですけども、詳しいことはまだよく分かっていないです。いづれにしても、さっきの笠塔婆のものも含めて、この辺りは非常に歴史的なゆかりのある地域だということになりますね。

以上となります。ごく一部でしたけれども、この絵図を元に今日は歩いてきました。地元の方はこの機会にぜひいろいろと、曼荼羅寺のほうであったり、或いは五岳山なんていうのも歩かれたらよろしいかなと思います。五岳山は私、恥かしながら去年初めて歩きましたけれども、もう大変な思いをしました（笑）。私の人生のなかで一番過酷な登山になりました。登山するにあたっていろいろと、どれぐらい時間が掛かるのかとかインターネットで情報を仕入れて行ったんですけども、もう想像を絶する過酷さで、なんていうか甘く見ていました（笑）。大体6時間ぐらい掛かりましたかね。五岳山縦走ルートを歩かれた方っていますか。あ、いらっしゃいますね。いかがでした？（参加者「きつかったです。」）そうですね。私そのとき、善通寺の裏から登って行ったんですけども、6時間ぐらい掛かって、ちょうど鳥坂峠のおまんじゅう屋さんがありますよね、あそこでまんじゅうを貪り食うように食べましたね（笑）。すみません、余計な話でした。善通寺という街は非常に魅力ある地域かと思います。私も、まだまだこの先もこの辺りをいろいろと歩いて行きたいと思っています。それで、もしかしたら皆さんとまたこの辺りを歩いていてお会いすることもあるかもしれません。今日はちょっと拙いご説明でしたけれども、これで一通り私の説明は以上です。ありがとうございました。

